

がんばろー山田

希望

マフラーが届いた



船越小学校の児童に70本の手編みのマフラーが届きました。ことの起りは、5月中旬に青少年の家に一本の電話が入りました。可船小が被災したのをテレビで見た。冬に備えて子供たちにマフラーを編んで送りたい。受け取ってもらうえますが口と言うことでした。学校に確認すると、可船小のしたいことでしたので、そのことを伝えると今から一生懸命編むとのことでした。そして、11月12日マフラーが届きました。添えられた手紙によると、その方はリウマチのため直接現地では支援できないので、何か支援したいということを手編みのマフラーを思いついたそうです。早速船小にマフラーを持って行くこと、すでに別の方からも手編みのマフラーが届いていると

のこと。このマフラーを加えると、ちょうど全校児童にマフラーを渡せると喜んでいました。送ってくださった福沢市の大井川さん、茨城市の岡本さん、宇都宮市の山本さん、佐々木さんありがとうございました。このような方々の支援の心によって私たちが支えられていますことを改めて感じました。

マフラーを首に笑顔の小供達!!



大沢に食堂オープン



10月25日大沢の大徳商店の一角に「マルダイ食堂」がオープンしました。お店のオーナーは盛岡の坂本さん。震災後に倉パシフィック岩手という会社を山田町の雇用で復興のために立ち上げたそうです。厨房を担当しているのは福士順士さんで、今回の震災を機に

山田に戻ってこられたそうです。互疎撤去作業の合間に仕事をしながら、現在の求人目録に留まり、現在の仕事に出会ったそうです。福士さんは「マルダイ」にしたばかりの頃は、料理することに慣れていなかっただけで大変でしたと話していました。今はだい

ぴかぴか大作戦

ぴかぴか山田大作戦という団体をみんさんご存じですか。今、インターネットや道の駅山田で販売されている「山田町復活暦」というカレンダーを作っている団体です。被写体になってくださった方の思い出の場所を撮影し、来年、再来年と同じ場所と同じ方向から撮影し、山田町の復興の様子を全国の方に届けたい、そして山田で活動をする中で雇用を増やすことができればと、盛岡の老田さんが発案し中心となって設立しました。新聞やラジオでカレンダーや活動が取り上げられ、全国の方から注文が入り、品薄状態が続いているそうです。カレンダーは販売新聞の取寄せ販売しているそうです。今回の震災を経験して、今まで普



送りものにいかがですか!

通にできていたことが、どんなに辛かったかが改めて実感している。ぴかぴか山田での活動を通して、全国の方に被災地の今を知ってほしいという思い、スタッフの方が話してくれました。カレンダーの注文と一緒に応援メッセージを送って下さる方も多く、ずいぶん励まされているそうです。時間が経ち、いつの間にか風化していくことは怖いですが、全国で応援してくださる方がいてくれるのは、心強いですね。

ぶ慣れ、来店されるお客様と話す余裕もできるようです。近頃の仮設住宅から歩いて食べに来てくださいる方もおり、メニューも、盛岡から調理スタッフが来たときは、ラーメンや餃子その他に、ステーキランチなどもあるそうです。来店を

マルダイ食堂は、山田町の付近にあります!



お知らせ

中央コミュニティセンターの2階にあった被災者相談センターが、12月12日(日)から役場3階の復興推進課の一角に移ります。このままと同じように、気軽にご利用ください。



第21回「師走の夢」クリスマスバラエティーショーが12月18日(日)午後1時から3時まで、中央公民館大ホールで行われます。チケットは無料です。問い合わせは02-3481-1111 社会福祉協議会まで

かき小屋の井物も焼そばは予約なしでも食べられます。ただし、食べ放題の予約でいっぱいの際は、予約がキャンセルの恐れがあります。確認してからお出かけください。

今年も本年に大変な年でした。新しい年は、ひとつ、またひとつと希望がもてる年であることを祈っています。新年が皆さんにとって良い年となるようお祈りします。

